

金融活動作業部会(FATF)暗号資産コンタクト・グループ会合

鈴木英敬政務官 開会挨拶（仮訳）

2023年4月12日（水）（於：東京）

[はじめに]

- 皆様、おはようございます。ようこそ日本にお越しいただきました。金融庁担当の内閣府大臣政務官として、本日から3日間、金融作業部会（Financial Action Task Force: FATF）の暗号資産コンタクト・グループ会合（VACG）及び民間アウトリーチ会合が日本で開催されることを大変嬉しく思います。北朝鮮のサイバー攻撃部隊による暗号資産の窃取・悪用など、暗号資産のマネロン・テロ資金供与・拡散金融上の悪用リスクが高まる中、暗号資産のマネロン・テロ資金供与等対策は重要性を増しています。こうした重要な作業に取り組んでおられる VACG のメンバー、FATF 事務局の皆様に関心から敬意を表します。
- また、日本として 2019 年の VACG 設立以降、共同議長として皆様とともに作業に貢献できていることを光榮に思います。

[G7 議長国]

- さて、本年、日本は G7 議長国として、ファイナンス・トラックでは、暗号資産に係るマネロン等対策に関して、日本のプライオリティの1つとしています。
この点、日本は、第一に、トラベルルールを含む FATF 基準について、全ての法域における速やかな実施促進のための FATF の取組を支持いたします。また、第二に、DeFi や P2P 等の新たなリスクのモニタリングと対処の方向性の検討に関する FATF の作業を支持します。
- 本会合でもこうした観点から、活発で建設的な議論がなされることを大いに期待いたします。

[VACG の重要性]

- 日本は 2019 年の G20 議長国としても暗号資産に係る規制・監督の議論を支持、ハイライトしました。同年6月、暗号資産に関する FATF 基準の採択を受け、FATF 政策企画部会（PDG）傘下に VACG 会合が設立されましたが、設立以降今まで、本会合は多くの成果を上げてこられたと承知しています。

- 具体的には、2020 年以降、FATF 基準についての各国や民間における実施の進捗状況について毎年報告書を公表し、また 2021 年にはステーブルコインやトラベルルールなどに関する考え方を示した暗号資産に関する改訂ガイダンスを公表するなど、各国・民間の FATF 基準への理解向上と FATF 基準の実施促進を後押しされてきました。

また、世界の民間セクターと活発に対話を行い、民間の取組を後押しするとともに関係者から強い信頼を獲得されてきました。
- こうした FATF における皆様の貢献は、過去の G7 や G20 のコミュニケでハイライトされているほか、各界から高い評価を得るとともに強い注目を浴びています。
- しかし、依然として、①FATF 基準が未実施の法域の存在、②いわゆるトラベルールの実施、③DeFi や P2P 等の新たなリスクなど課題が残っているのも事実です。日本としては本会合及び FATF の今後の作業を強く支持し、期待するとともに、今後も貢献を続けることにコミットします。日本としては新技術やイノベーションの機会を活用しつつ、ML/TF/PF¹のリスクには十分に対応することが必要と考えています。

[金融庁について]

- 日本の金融庁は、銀行、保険及び証券等を横断的に所管している統合監督・規制当局です。こうした強みを活かし、金融庁は、様々な国際的なフォーラムにおいて、金融分野に関する幅広い議論に積極的に参画しています。
- また、国際的な議論から得た知見を国内施策の検討に活用しています。例えば、日本は 2017 年、世界に先駆けて暗号資産交換業の登録制を導入し、暗号資産交換業者の規制・監督を行ってきました。また、昨年 11 月の FTX 破綻の事案について、我が国規制では、事業者に対して利用者資産の分別管理・保全が義務付けられていたことにより、我が国の登録を受けていた暗号資産交換業者である FTX Japan の顧客資産は保全されることになりました。既に顧客への資産返還が開始されています。

[おわりに]

- 最後に、本会合が実り多いものとなることを祈念し、御挨拶に代えさせていただきます。

(以上)

¹ ML (Money Laundering : マネーロンダリング)、TF (Terrorist Financing : テロ資金)、PF (Proliferation Financing: 拡散金融 (大量破壊兵器の拡散に寄与する資金の供与)) の略称。